ミサを生きる（11）
【ことばの典礼】（１）
■ミサの構造・各部
　Ａ　開祭
　Ｂ　ことばの典礼
　Ｃ　感謝の典礼
　Ｄ　閉祭

■「集会祈願」をもって「閉祭」の部は終わり、「ことばの典礼」が始まる。

■「ことばの典礼」と「感謝の典礼」とがミサの本質をなしていることは、『典礼憲章』（第二バチカン公会議）の次の言葉によって示されている。「ミサは、ある意味で二つの部分から成り立っている。ことばの典礼と感謝の典礼は、相互に固く結ばれて一つの礼拝行為をなしている」（５６）。

■第二バチカン公会議は、ミサにおけることばの典礼の重要性をあらためて確認した。それは、中世以降受け継がれてきた感謝の典礼を強調する傾向に対する反省を含んでいる。公会議以降の教会文書はたびたび、「キリストの両形態における現存」とともに、「ことばにおける現存」をも強調している。(『典礼憲章』７，３９，５２.『啓示憲章』２１、新『ミサ総則』２９など参照)。

　⇒「聖書が教会で朗読されるときには、神ご自身がその民に語られ、キリストは、ご自身のことばのうちに現存して福音を告げられる。

　したがって、神のことばの朗読は典礼のもっとも重要な要素であり、一同は尊敬をもってこれを聞かなければならない。」（新『ミサ総則』２９）

　⇒「ことばの典礼の主要部分を構成するのは、聖書からとった朗読と、朗読の間にある歌である。説教、信仰宣言、および共同祈願すなわち信者の祈りは、それを展開し、結ぶものである。説教による解説を伴う聖書朗読の中で、神はその民に語られ、あがないと救いの神秘を説き明かし、霊的な糧を与えられるのである。そして、キリストは、ご自身のことばによって信者の間に現存される。この神のことばを、会衆は沈黙と歌によって自分のものとし、信仰宣言によって自己に結合する。また、神のことばに養われた会衆は、共同祈願によって教会全体の必要と全世界の救いのために祈りをささげる。」（同上５５）